



国労東京支部

2022年11月11日

第33号

国鉄労働組合東京支部機関紙

発行責任者 松田 恭明

編集責任者 佐藤 賢一

国労東京支部第3回定期大会開催

国労東京支部は10月29日、田町交通ビルにおいて第3回定期大会を開催した。議長に清水代議員（品川保線技術センター）、副議長に清水代議員（大崎運輸区）をそれぞれ選出した。

冒頭、松田委員長は「職場でコロナに感染して労災認定された件、職場の労働条件改善・JRの合理化施策について、23春闘勝利に向けて、組織拡大と国労運動の継承発展について、平和と民主主義を守る政治闘争の強化について」の5点にわたってあいさつした。

続いて鉄道退職者の会、清水東京地方連合会会長、上部機関の田中東京地本書記長から連帯のあいさつを受け、神奈川・八王子・大宮の各地区本部からのメッセージが紹介され、議事へと入った。

経過報告と運動方針が一括提起され、8名の代議員が発言。代議員からは、「職場の労働条件」「社員代表者選挙」「エルダー問題」などが報告された。鈴木書記長が集約し、運動方針は全体の拍手で承認された。

その後、スト権確立の投票がされ、出席代議員23人中、全員の賛成を受けてスト権が確立された。

新旧役員紹介の後、佐藤執行委員が大会宣言を提案し採択された。

最後に松田委員長の団結がんばろうで第3回定期大会は成功裡に終了した。



新執行部紹介

執行委員長

松田 恭明（JESSS 高田馬場駅）

執行副委員長

恒本 肇（JESSS 高田馬場駅）

書記長

鈴木 敏（SCSP 新宿遺失物取扱所）

執行委員

島崎 将（上野車掌区）

八郷

清幸（JESSS 蒲田駅）

岡部

貴政（JESSS 有楽町駅）

東

功二（JESSS 有楽町駅）

佐藤

賢宣（JESSS 有楽町駅）

佐藤

宣池（JESSS 有楽町駅）

市川

調査（JESSS 有楽町駅）

千田

永治（JESSS 有楽町駅）

伊東

敏夫（JESSS 有楽町駅）

山田

克之（JESSS 有楽町駅）

会計監査委員

中山

充郎（JESSS 東中野駅）

堀

英知（JESSS 目黒駅）

女性加藤

照代（JR東京総合病院）

青年加藤

義貴（東京総合車両センター）

上田

智太郎さん

竹田

文利さん

お二人には東京支部結成時から尽力をいただきました。ありがとうございました。

退任された役員



岡本代議員（東京通信技術センター）

○10月に組織体制が変更となり、テレワーク中心の仕事。○信通と通信職場が合併された。○本社の方が改革を唱えても現場ではそうっていない。交渉もしていると思うが、職場からきちんと声を上げる必要がある。○引き続き組織拡大に向けてがんばりたい。



白井代議員（東日本テクノロジー）

○うちの職場も現職が6人となった。次世代に運動を継承するため、地味な活動を続けていく。○黒沼裁判は家族が継続して闘っている。さらなるご支援をお願いしたい。○佐藤さんは国労加入して労災を勝ち取った。○全国各地で不採算路線廃止の話が出ている。国労として地方ローカル線廃止反対の闘いを。



池田代議員（池袋運輸区）

○池袋駅佐藤さんが職場でのコロナ感染で労災を勝ち取った。○運輸区も支社との兼務が増えている。○エルダー組合員の3分の1が短日勤務をしている。短日勤務の組合費をもっとシンプルにしてほしい。○山手線で自動運転の試運転が始まった。○池袋と渋谷の合同執行委員会を2回ほど行った。ふだん交流できない仲間の話を聞けてよかった。



大石代議員（大井機関区）

○シニア社員として休日が多い勤務を選ぶと基本給が2万円ほど少なくなる。○貨物の運転職場は慢性的な要員不足で、健康も脅かされている実態。○コロナ感染者も多く出たが、会社は行路を減らさず年休を抑制して乗り切っている。おかしいと思う。



須藤代議員（テクノハート）

○東京駅新幹線の車両清掃をしている。7分間で作業しなければならず、きつい。○エルダー先がギリギリまで決まらない。何とかしてほしい。○M職場でクラスターとも思われるような事象が発生した。他労組の組合員が労災を申請した。私は東京支部ニュース（池袋駅労災問題）を渡して激励した。国労はコロナ問題で会社とどのような交渉をしているのか教えていただきたい。○65歳定年制を求めて闘おう。



菊地代議員（東京建設PMO）

○職場では若年退職者が増えている。理由として心の病、JRへの見切りなどあげられる。○代表者選挙は、労組だからできることを訴えている。いまだにWEB投票だが、再三にわたり団交で申し入れているが平行線のままである。粘り強く闘っていく。○エルダー制度は、賃金面、労働条件に関して不満がある。改善の要求を。



高橋代議員（隅田川機関区）

○春闘時にビラ配布行動を支部と一緒に取り組んだ。それなりの成果はあった。○運転士が育たない。要員がいない。病欠者が多い。○事故等が起こればチェック項目が増え、仕事も増えている実態がある。



鳩貝代議員（渋谷駅）

○組織拡大できる状況にはなっている。○代表者選挙では、組合員数よりも票は獲得している。その声をどう生かすか。○23春闘は、ここ2年ほど支部として取り組んでいないが、旧新橋支部でやっていた春闘行動のような大衆行動をやってほしい。

書記長集約（紙面の都合上一部のみ抜粋 全文は別掲します）

組織の強化・拡大について

組織の基盤である財政問題について、「労金の出資証券の支部への統合」「一分会一通帳」の取り組みに協力していただいていたありがとうございます。

代議員の発言にありました。「春闘時に国労をアピールする運動として門前ビラに取り組んだ」「他地区と合同の執行委員会を開催し、交流を深めた」「役員だけの運動ではなく、今後の分会の在り方を議論した」など、厳しいながらも創意工夫した取り組みが行われています。

会社施策による組織の再編が行われる中、会社と対峙する機関としての見直しも求められ、再雇用組合員の所属分会の在り方、将来を展望した組織づくり、次世代を担う仲間への組織と運動の継承に向け、全力をあげていきます。